

第7回八戸市学校適正配置検討委員会会議録

日 時：平成21年12月21日（月）13:30～15:30

場 所：八戸市庁本館3階 議会第一委員会室

出席者：（委員）目修三、古館良策、今勝康、大島光子、今川一、黒澤宗男、古館義美、
北向幸吉、岩村隆二、日山祥子（以上10名）

（市教委）松山教育長、芝教育部長、伊藤教育部次長、高野学校教育課長、
佐々木学務GL、磯嶋学務G主査、町井学務G主査（以上7名）

計17名

事務局：ただいまから第7回八戸市学校適正配置検討委員会を開催させていただきます。本日は委員
全員がご出席ですので、八戸市学校適正配置検討委員会設置要綱第5条第3項の規定により、
本日の会議は成立となりますことを皆様にご報告させていただきます。

事務局：早速審議に入りますが、進行は目委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願
いいたします。

委員長：それでは会議を進めさせていただきます。まず初めに、前回審議を終了しまし
た中沢中学校地区について事務局でまとめていただきました。説明をお願いします。

（事務局「審議のまとめについて（中沢中学校地区）」説明）

委員長：ありがとうございました。審議のまとめについてご意見・ご質問はござ
いますか。

（委員異議なし）

委員長：よろしいようですので、中沢中学校地区に関してはこのようにまとめる
ということで、委員会として了承したいと思います。それでは次に、同じく前回、審議を終了
した長者中学校地区について、事務局でまとめていただきましたので説明をお願いいた
します。先日、番屋小学校の個別学校意見交換会を開催したようですので、その時の様子
も併せてご報告願います。

（事務局「審議のまとめについて（長者中学校地区）」説明

「番屋小学校個別学校意見交換会」開催報告 ）

委員長：ありがとうございました。審議のまとめについてご意見・ご質問並びに番屋小
学校の個別学校意見交換会の開催報告についてのご意見・ご質問はございますか。

委員：番屋小学校の個別学校意見交換会での最後の保護者からの意見は本音だと思
う。町内会長の中には学校を存続させたいという意見もあるようだが、やはり子どもの
ことを第一に考えると他の学校へ統合して大きい学校に通わせたほうが良いと思
う。

（委員から同意見との発言あり）

委員長：他にご意見はございますか。よろしいようですので、長者中学校地区に
関してはこのようにまとめるということで、委員会として了承したいと思います。それ
では次に、同じく前回、審議を終了した是川中学校地区について、事務局でまと
めていただきましたので説明をお願いします。

（事務局「審議のまとめについて（是川中学校地区）」説明）

委員長：ありがとうございました。審議のまとめについてご意見・ご質問はござ
いますか。

(委員異議なし)

委員長: よろしいようですので是川中学校地区に関してはこのようにまとめるということで委員会として了承したいと思います。

委員長: 今までの審議の中で、中学校 1 校、小学校で 4 校が統廃合の方向という結論になっています。また、美保野小学校については、特認校として特色を出して検討していくという形になっていますが、それぞれの学校にそれぞれの特色がありますので、美保野小学校だけが特認校でよろしいのかという疑問もあります。そこで、審議がある程度進んで複式校の議論がだいたい終わった後に、または学区の審議が終わった後に、特に統廃合や特別な形で残すような学校については、バランスも考えてもう一度検討したいと思います。よろしいでしょうか。

(委員異議なし)

委員長: それでは次に今日の審議に入りますが、次第では、一番初めに大館中学校地区の審議となっておりますが、この地区は、隣接する湊中学校地区・東中学校地区との問題がかなり大きいように感じました。私の提案ですが、審議の順序を変えて南浜中学校地区、それと隣接する鮫中学校地区を先に審議いたしまして、その後に大館中学校地区の審議に入りたいと思いますがよろしいでしょうか。

(委員異議なし)

委員長: それでは、南浜中学校地区の審議をはじめたいと思いますが、事務局から対象地区の説明をお願いいたします。

(事務局「南浜中学校地区のまとめ」説明)

委員長: ありがとうございます。それでは、南浜中学校地区の審議に入りたいと思います。委員の皆様のご意見をお願いいたします。

委員: 金浜小学校と大久喜小学校の距離はどれぐらいか。金浜小学校から大久喜小学校まで山道だと思うが、まっすぐの道路はあるのか。一旦、海岸に出なければならないのか。

事務局: 学校間の距離で 4.5 キロメートルです。

事務局: 金浜小学校から大久喜小学校へはまっすぐではありませんが裏の山道はあります。南浜中学校に通う金浜の子どもたちは、金浜駅から大久喜駅まで車で通学しています。金浜小学区の国道 45 号線に近いほうの子どもたちは、交通の便を考慮して大館中学校に通っている場合もありました。

委員長: 金浜小学校に関しては、複式もそうですが一学年 1 人という状況が将来的にも出てきます。この辺の問題も含めてその他ご意見はありますか。

委員: 将来的なことも勘案すれば、金浜小学校は 6 年後に児童が 3 人という状態である。子どものことを考えるとどちらの学校に行くかは別としても、考える必要がある。

委員: どこの地域でも、学校が地域の核になっているから学校を無くしたくないというのがほとんどである。教員の負担も増えてきている。これからのまちづくりは学校に頼りすぎずに、地域でまちづくりをしていくという方向に進んでいくべきである。子どものためを思えば、やはり大きい学校に通わせてのびのびと教育を受けさせたいという思いはある。

委員: 教育委員会で小中学校ジョイントスクール、地域密着型推進事業を行っている。子どもが少ない地域の方々は、先祖が築いてきた学校は無くしたくないという話がある。金浜小学校も他の小学校も 100 年以上も続いている小学校なので、やはり地域の人たちの力がものすごく

強い。しかしながら、誰が主体かといえども子どもたちである。複式というのは、やはりいかなものかと思う。確かに学校は地域の中にあり地域の宝であることはわかるが、その主体となっている子どもたちが、地域の中でないがしろにされているように感じる。

委員：今の小学生は昔と違って大人な部分もあるが、子どもなので残酷なところもある。親と関係がうまくいってないような子どもも周りに数人いるが、共通するのは、話を聞いてもらえず、それにより我が強くて友達もできにくい。そういった場合、小さい学校だとすごく孤立してしまうと思う。学校でも逃げ道がなく、親とも会話がない。そういう子なので塾にいてもうまくやっっていけない。それを見ているとすごくかわいそうである。何人か集まれば、ひとりふたりは気の合う仲間がいると思う。同学年でいなくても後輩をかわいがるお姉さんが出てくると思うので、一学年で一人ふたりは、やはり子どもにとっては難しいと思う。大事な時期でもあるので、中学校に行くにあたって、ある部分が育たないまま進級してしまった時には、もう親も誰も手をつけられないというような状況も出てくる可能性があると思う。

委員長：金浜小学校は、平成 25 年度から 1 年生がずっと入らない推計となっていますが、若い世帯が少ないということですね。

委員：金浜は人口自体が減ってきているはずである。高齢者は地元に残り、若い人たちはまちのほうで生活している。学校近辺は民家も少なくなっている。

委員：統合してあげたほうが子どものためにもいいと思う。

委員：家でもひとり、学校へ行ってもひとりという状況では、子どもの成長段階において互いに教えあうとかいろいろな経験ができない。こういう教育環境を与えるのは大人の責任であると思う。その辺は地域の方々があまりエゴにならないほうがいいと思う。以前、分かれて開校したある学校の運動会に行った時、ある町内会長が、児童が少ないのでだんだんにまた一緒になったほうがいいのではないかと saying いた。学年 1 学級だと二つに分かれて競い合うことができなくてかわいそうだという話もあった。

委員：複式でなくても、例えば学年 1 学級である学校は、学級を増やしたいため隣接する学校と統合したいという保護者も出てくるかもしれない。

委員：年配者はノスタルジーというのがある。昔は交通網が発達していないため隔離したところで学校を核にして地域が密着していたが、今はそれが崩壊している。子どもがいない方々がノスタルジックに学校は必要だと思っても、現実問題として、学校はそもそも集団で教育するのが原則である。児童が 3 人しかいないとなれば、今は交通も発達しているので、本当に子どものためという視点を大事にしていけば、これは存続できないような感じがする。けっこう他の学校へ流出しているが、これにはいろいろな理由はあると思うが、本音を言えば、見限っているのかもしれないし、教育的効果を求めてやっているのかもしれない。

委員長：金浜小学校については統合という方向性が出てきていますが、他の小学校についても議論したいと思います。まず、大久喜小学校については、向こう 6 年間は複式は何とか避けられそうだという推計になっていますが、何かご意見はありますか。

委員：大久喜小学校は大丈夫だと思う。

委員：私も大久喜小学校は現状維持で大丈夫だと思う。

委員長：大久喜小学校は、種差小学校と金浜小学校の比較的真ん中にあるということと、南浜中学校が近いことから小中連携という面でも教育効果が高いと思います。種差小学校についてはほど

うでしょうか。平成 23 年度から複式が導入されることもありますし、白浜町内が中学校に行くときに別れるというのが地域意見交換会でも議論になっているようです。

委員：地図から見ると白浜町内は距離的に南浜中学校よりも鮫中学校のほうが近いようである。白浜の子どもたちは汽車通学か。

事務局：まちのほうへ仕事に来る保護者が多いと思いますので、行きは保護者が送ることが多いと思います。帰りは歩いているようです。

委員長：種差小学校の町内別児童数を見ると三分の一が白浜町内の児童となっています。

委員：南浜中学区として種差小学校を位置づけるのか、隣接する鮫中学区とするのかという議論もあると思う。学校関係者意見照会の結果では、種差小学校の児童は鮫中学校に行ったほうが良いという意見もある。

委員：種差小学校を鮫小学校と一緒にすると、南浜中学校が人数が少なくなりバランスが崩れてくると思う。

委員長：白浜町内だけを鮫小学校にして、その他の町内を大久喜小学校とするというような選択肢もあるかと思います。

委員：種差小学校が大久喜小学校に統合となると、かなり抵抗があると思う。

委員：種差小学校は種差海岸を控えているので学校が無くなると寂しいというところがあると思う。南浜中学区は、南浜中学校、大久喜小学校はそのまま現状維持で種差小学校は複式になるときに再度考えるということで当面は現状維持でいいと思う。金浜小学校は統合はやむを得ないと思う。

委員：種差小学校は非常に微妙なところにあると思う。現実複式が始まろうとしているが、これが3年後となるとまた変わるかもしれない。もう少し様子を見たほうが良いと思う。

委員長：6年後にこのような状態がこのまま続くようであれば、南浜中学校地区は1中学校1小学校ということも検討すべきということで、種差小学校は現状のまま状況を見ましようというご意見だと思います。

委員：種差小学校の児童は、中学校が別れることについて実際にどう思っているのか。

委員：私も中学校が別れる地区の小学校に通っていたが、今このことについて議論しているので意識するようになったが、その当時はそのことについては全く意識していなかった。中学校が別れることに全く違和感がなかった。

委員：白浜町内の人は鮫に来るのは便利だと思う。今は道路が整備されているので、保護者が勤め先に行くにしても途中で子どもを置いていけばいいが、逆に南浜に行くとは逆方向になるので、現在の保護者から反対されると思う。

委員：白山台中学校ができた時に、田面木小学校は1町内が白山台中学校へ、あとの5町内が根城中学校へ通学することになった。それでも、一旦決まってしまうとそれに従うのであまり抵抗はないと思う。

委員長：南浜中学校についてはどうでしょうか。隣接する鮫中学校との統合というのも現実的には難しいと思います。また、この地域は鮫と歴史性も違うと思います。

委員：この地区は将来、中学校1校小学校1校という方向に進むべきだと思うので、南浜中学校は現状維持でいいと思う。

委員：できれば南浜中学校は全くいじらないで現状維持でいいと思う。金浜小学校も統廃合でなく

なり、南浜中学校も統合となると地域も混乱する。

委員長：それではまとめたいと思いますが、南浜中学校地区は、金浜小学校は大久喜小学校に統合する。南浜中学校、大久喜小学校、種差小学校は現状維持とする。ただし、種差小学校の複式については懸念すべきで、将来複式が解消されるよう努力する。この複式が続くようであれば再度検討するという事でまとめたいと思いますがよろしいでしょうか。

(委員異議なし)

委員長：それでは、引き続き鮫中学校地区の審議に入りたいと思います。審議に入る前に、事務局から対象地区の説明をお願いします。

(事務局「鮫中学校地区のまとめ」説明)

委員長：ありがとうございました。それでは審議に入りたいと思います。鮫中学校地区についてご意見をお願いいたします。

委員：先程審議したが、種差小学校については何年か後に複式が導入され、その時に再度検討するという事になった。鮫中学校も生徒数が少なくなってきており、鮫小学校も1学年1学級という状況が出てきているということは、全体的な傾向としてはある。鮫地区には八戸南高校、八戸水産高校がありながら、八戸南高校は数年後に八戸北高校に統合される。これは県の方針で決まっていて、鮫地区の方々も南高校存続の署名活動をしたが、それが叶わずがっかりしている。これは、生徒数の減少を考えればやむを得ないとも考えられるが、高校が一つ無くなるということで、鮫中学校、鮫小学校は手をつけずに現状維持とし、子どもを増やす努力をしたほうが良いと思う。

委員：鮫のまち自体がかつての賑わいがなくなってきて衰退している。鮫中学校も鮫小学校も崖の上にある。通学には大変だと思うが、建てる時に、津波のことを考えてそうしたといういきさつがある。鮫中学校も鮫小学校もこのまま存続するという事でいいと思う。

委員：鮫小学校は、6年後にだいたい人数は減るが、市内の他の小学校と比べてもそれほど減少率が高くはないのではないか。鮫はこのままでいいと思う。

委員長：この委員会は、来年の9月を目処に提言を出すという使命を受けていますが、鮫小学校の状況を見ますと、別のところでもっと長期的に今の小学校中学校の配置の仕方について、別の観点から議論することも必要であると思います。児童数については半減までいきませんが、6年前と6年後を比較すると半減しています。八戸市の義務教育の学校のあり方がどうあるべきかを議論することが必要だと思います。

委員：鮫小学校の児童数が6年前と6年後で半減する見込みであるが、現在から6年後でいうと30パーセントぐらい減る。この鮫地区は減少数が多いほうの地域に入るのか。あと6年後というより更に減る可能性があるのではないか。

委員長：先程申し上げましたが、少し視点を変えて、何校かの間でスクールバスを運行して適切なところで適切な教育を受けられる改変性というのでも考えていかなければならない感じもします。この委員会での学校規模の基本的見解は、小学校は120名、中学校は180名としており、この数字から見ると一応満たしているということにはなります。しかし、減少という面から見ますと少し先行きが心細いものがあると思います。

委員：鮫小学校の学区外による流入が多いこれは、鮫小学校がよほど魅力的な学校であるということか。

委員：学区外通学の理由で留守家庭が多い。おそらく、祖父母宅が鮫にあり、放課後預けるということで学区外通学しているのではないか。

委員：鮫には水産加工業の大きな会社がある。そこに勤めている方が多いという影響もあるのではないか。

事務局：先程、委員から児童の減少率についてのご質問がありましたのでご説明いたします。将来6年間の1年毎の平均減少率は、鮫小学校がマイナス8パーセントとなっており、これは市内の小学校では47校中4番目に高い減少率となっています。

委員長：鮫地区に関してその他にご意見はございますか。問題となるのは種差小学校との関係だと思えますが、先程その件につきましては議論いたしました。

(委員意見なし)

委員長：それではまとめたいと思いますが、鮫中学校地区は、鮫中学校、鮫小学校ともに現状維持ということでまとめたいと思いますがよろしいでしょうか。

(委員異議なし)

委員長：それでは、引き続き大館中学校地区の審議に入りたいと思います。審議に入る前に、事務局から対象地区の説明をお願いします。

(事務局「大館中学校地区のまとめ」説明)

委員長：ありがとうございます。この地区は、松館小学校の複式の問題、大館中学校、新井田小学校の学区の問題等が議論になると思いますが、議論を整理する意味で先に松館小学校について審議し、それに道筋をつけたうえで他の地域の審議に入りたいと思います。それでは、松館小学校についてご意見をお願いいたします。

委員：大館中学校地区の地域意見交換会に先立って松館町内会で会合を開いたとあるが、開催の経緯について教えてほしい。

事務局：松館地区は1町内に1小学校があります。今年の8月5日に松館町内会長から学校教育課に電話で依頼がありました。「8月28日に大館中学校地区の地域意見交換会が開催されるとのことだが、町内としての考えをある程度整理した上で臨みたい。そのため、8月22日に町内会で適正配置についての会合を開くので、参加者に正しく内容を伝えるため、教育委員会から説明をしてほしい。」という依頼があって出席いたしました。学校教育課から適正配置についてご説明した後に、町内会で話し合っただけで考え方を整理したものと思われま。従いまして、現段階で松館小学校を存続させてほしいから説明してほしいということではなく、適正配置について理解し、そして意見交換会に臨みたいという趣旨です。

委員長：確認ですが、教育委員会で説明し退席した後の議論の内容については伺っていないということではよろしいでしょうか。

事務局：はい。退席した後の議論の内容については把握しておりません。

委員：この地域は市街化調整区域だと思うが、宅地化など人口が増える見込みはあるのか。

事務局：市街化調整区域は市内にたくさんありますが、基本的に現在の市街化調整区域を剥ぐというのは難しいと市長も公式の場で言っております。ただ、市街化調整区域だからといって必ずしも家を建てられないわけではなく、条件をクリアすれば市街化調整区域でも家を建てることは可能です。

委員：松館小学校地区は、石灰鉱山や松館大慈寺がある等、歴史的にも特殊な地域であり、部落一

つでまとまっている。仮に新井田小学校と統合するにしても、同じ大館中学校なので地理的にはいいのかも知れないが、以前、修学旅行も一緒に行っていたが、大人数の中に混じって旅行に行ってもお客さんのような状態で、松館の子どもたちがなかなか活動する場面がなかった。そうしたこともあり、2年おきでもいいので単独で実施したいということで、ある時期から修学旅行は単独で実施するようになり、現在でもそうしていると思う。また、松館小学校は、人数は少ないが非常に特色ある教育をしている。一輪車や合奏などの特色ある音楽的活動、相撲も地域の方々が指導して盛んであるなど、子どもたちを中心に学校がまとまっている。保護者は、本音では子どもを大きい学校へ通わせたいと思っており、地域には学校を存続したいという意見がある。大館中学校地区は、新井田城祭でも松館の子どもたちが参加したり、吹奏楽も小中合同でやるなど、松館小学校を含めてそれぞれ地域がまとまっている。松館小学校は数年後には10人ぐらいまで児童が減ると統計では出ているが、不登校的な子どもを受け入れたり、隣接する新井田地区からも通学できるようにするなどして特認校としてモデル的に実施するのもいいかと思う。

委員：調整区域の問題が出たが、八戸市の人口も減少しており、現実的にそういう中で調整区域を外すとまちづくりができなくなってしまうという観点もある。市街化区域でさえも家が建たない状況にあるので行政の立場でもこれを剥ぐというのは難しいと思う。そういう状況の中で学校を維持していくとなれば、特認校なりいろいろな働きかけをして、松館の良い点等を各学校と話をし、そこに送り込む人たちを開拓する必要があると思う。新井田小学校があまりにも大きい学校なので、その辺の調整も可能なのかも探りながら検討していくことが必要だと思う。

委員：この地区には児童館はあるのか。

委員：児童館はある。

委員：八戸市の子ども会でソフトボール大会があり東西南北の4つの代表が集まるが、大館地区の代表は松館小学校で、児童数が少なくても小学校3年生の女の子が入ってでもチームを作って毎年出場している。ただし学校からは、来年からは出場はできませんという話を聞いている。そういう意味でも、非常にまとまっている地区であると思う。

委員長：そろそろ終了時間が近くなってきましたのでまとめたと思います。松館小学校は、美保野小学校とほぼ同じような状況です。美保野小学校については特認校として存続という方向性は出していますが、そもそも特認校とはどういう教育が望ましいのか、八戸市に特認校が何校まで許されるのかという議論も必要になってくると思います。その点もお考えいただきまして、また資料も次回までに見ていただいて、継続審議としたいと思います。よろしいでしょうか。

(委員異議なし)

委員長：それではそのようにさせていただきます。本日の審議予定は以上となりますので事務局にお返しいたします。

事務局：ご審議ありがとうございました。それでは事務局から2点ご報告させていただきます。まず1点目は地域意見交換会の開催日程のお知らせです。お配りしております会07-資料13をお開きいただきたいと思います。今後の開催予定といたしまして、第15回目の第一中学校地区を1月20日の水曜日に第一中学校図書室で、第16回目の第二中学校地区を2月2日の火

曜日に第二中学校図書室で、第17回目の小中野中学校地区を2月16日の火曜日に小中野中
被服室で、第18回目の第三中学校地区を3月24日の水曜日に第三中学校体育館で開催する
予定となっています。委員の皆様におかれましては、ご都合がございましたらご参加いただき
たいと思います。もう1点ですが、次回委員会の開催日程を決めたいと思います。1月21
日（木）午後1時30分から開催したいと思いますが委員の皆様でご都合の悪い委員はいら
っしゃいますか。

（委員異議なし）

事務局：それでは次回は1月21日（木）午後1時30分をお願いしたいと思います。以上をもちまし
て第7回目の適正配置検討委員会を終わらせていただきます。大変ありがとうございました。

以上